

学部優秀部門奨励金

(法学部 2020年3月卒業)

## 卒業報告書

私は大学生生活を始めるとき、何の目的も持たずにいました。ただ卒業ができればいいという稚拙な考えで授業を受けていました。そして私が大学に入学してから一ヶ月が経とうとしているときに母が他界しました。母を失ったときに悲愴感と共に今のような怠惰な大学生生活を送っているようでは私を育ててくれた母に申し訳ないと感じそれまでの大学生生活を改める決意をしました。

それから私は二つの目標を立てることにしました。一つは学業において成績優秀者になるということ、二つ目は部活動において結果を残すことです。一つ目の成績優秀者とは一年間で学部の専門科目において優秀な成績を残した上位二十名を指すものです。私はこの制度があることを知り、定まっていなかった学業へのモチベーションにすることにしました。二つ目の部活動においての結果とはまず公式戦に出場することです。私は大学から体育会のハンドボール部に所属しハンドボールを始めました。甲南大学のハンドボール部は関西に六部までであるリーグの二部に所属し、部員には高校時代に全国大会に出場している選手もあり、大学からハンドボールを始めた私にはレベルの高い環境でした。私はこのような環境でまず結果として考えられるのは公式戦に出場することだと思いこのような目標を立てました。

この目標を立ててからの私の大学生生活は以前のもと比べて充実したものになりました。私は物事に目標を立てて向き合うことで生活におけるメリハリや充実感などが生まれることを感じ、改めて何事にも目標を持って生活をすることの重要性を認識しました。

そして年次が一つ上がり二回生になり昨年の成績優秀者が発表されるときがきました。私は目標であった成績優秀者に選ばれることができました。そのことに私は達成感を味わい次も継続して成績優秀者になることを決意しました。それと同時に新たな目標を立てることにしました。それは成績優秀部門で特待生になることです。成績優秀者の集まりがあった際に、甲南大学ではある一定の基準を満たした学生が特待生に選ばれると話している学生がおりその様な制度があることを知りました。私はその場で学部長の先生に特待生についてのことを質問しました。そして学部長の先生は詳しい基準は教えられないが特待生になれるのは法学部で四人だけと教えてくださいました。私は学業のモチベーションを上げるためにさらに高い目標を立てることを考え成績優秀部門で特待生になることを決意しました。二つ目の目標である公式戦への出場は日頃の練習や練習試合での結果が認められ短い時間ではありましたが私は秋のリーグ戦に出場することができました。そして次はもっと長い時間試合に出場すること目標にしました。

そして三回生になり、その年度の特待生が発表され成績優秀部門に私の名前がありました。もちろん成績優秀者にも選ばれました。私は大学生活における大きな目標を達成することができ大いに満足しました。そしてこのことに慢心せずこの成績水準をキープしたまま卒業することを決意しました。部活動では膝に怪我を負い二度手術することになりました。そこで私は部活動での目標をチームのためになることをすることと考え、主務としてチームの運営に関わることにしました。

私はこの四年間の学生生活を、目標を明確に立てそれを達成することで文武両道の充実したものを送れたと感じています。これから社会人になっても目標を立て実行し達成するということが大事にしていきます。そして私にたくさんのものを与えてくれた社会に対して感謝し次は自分が与えられる人間になっていこうと思います。